

日頃より大変お世話になり、誠にありがとうございます。

先月21日に、北朝鮮が核実験を中止することを表明しました。これに対し、トランプ大統領は「大きな進展だ！これは北朝鮮と世界にとって、大変素晴らしいニュースだ。米朝首脳会談を楽しみにしている。」と大歓迎しています。韓国も同じく大喜びです。

しかし、北朝鮮は「核兵器を放棄する」とは、一言も言っていない。むしろ、金委員長は「国家核戦力の建設が完璧に達成され、貫徹された」と発言しています。要は、北朝鮮が核保有国であり、実験の段階は終わったことを宣言しているわけです。

したがって、当面、トランプ大統領と文大統領の外交上のメンツは保たれたかもしれないが、我が国への脅威は変わりません。

専門家の分析の中には、「北朝鮮は長距離核弾道ミサイルの最終的な実験をまだ終えていない」というものもあります。邪推をすれば、「アメリカ第一主義」の大統領は、米国本土を直撃する長距離弾道ミサイルさえ放棄するなら、それで「良し」としているのかもしれない。

しかし、我が国は、中短距離のミサイルでも十分射程距離の範囲内に入っています。同時に、拉致問題の解決も主張していかなければなりません。この二点について、日本と米国の利益との間に温度差があります。

安倍総理は、こうしたことを受けて、「前向きな動きと歓迎したい」としつつも、核・ミサイル開発の完全、検証可能、不可逆的な廃棄につながるかどうか、しっかり注視したい」と冷静に語っています。今後も、我が国としては、**米国、韓国の前のめりな姿勢を牽制していくべきです。**

もちろん、トランプ大統領も、米朝会談が「成果が上がりそうになれば」いつでも取りやめにするクギを刺しています。しかし、ついこの間まで、北朝鮮との話し合いは「時間の無駄だ」と気炎を吐いていた大統領なので、今後どのように行動するかはわかりません。

こうしたことを米国や韓国に主張しながら、他方で、北朝鮮に対する敵基地攻撃能力をもつための準備を着々と進めることが求められます。また、中長期的に人口問題や経済成長といった日本の基礎体力を強化していくことが、最大の政治課題となります。日本のまわりの治安は、当面は改善されないからです。